



図1. ツツジトゲムネサルゾウムシ.



図2. アカスジケシツブゾウムシ.

1ex., 松前郡松前町字館浜折戸浜海岸, 1. VII. 2017. (図2)

海岸脇の草本類のビーティングにより得た. 本種の分布域は, Morimoto & Kojima (2007) によると, 本州, 四国, 九州, 中国, 台湾, 極東ロシアとなっているが, 北海道からの記録はなかった.

引用文献

Morimoto, K. & H. Kojima, 2007. Weevils of the genus *Smicronyx* in Japan (Coleoptera: Curculionidae). *The Entomological Review of Japan*, 62(1): 1-9.
 中谷正彦, 2013. 「摩周湖の昆虫」コウチュウ目追加記録. *Sylvicola*, (30): 148-150.
 中谷正彦, 2018. 「摩周湖の昆虫」コウチュウ目追加記録 II. *道東の昆虫と自然*, (4): 60-62.

(柏崎 昭 001-0031 札幌市北区北 31 条西 6 丁目 2-10)

【短報】オオダングラチビタマムシの加計呂麻島からの記録

加計呂麻島は, 大島海峡を挟み奄美大島の南岸と向かい合う面積約 77 km² の海岸線が複雑に入り組んだ細長い島である. 同島におけるタマムシ科甲虫の記録は非常に少なく, 現在までに 2 種の分布が確認されているにすぎない (大桃・福富, 2013; 酒井, 2017). 筆者の一人である吉武は, 加計呂麻島においてオオダングラチビタマムシ *Trachys dilaticeps* Gebhardt, 1928 を採集しているので, 同島初記録としてここに報告する.

1 ex., 鹿児島県大島郡瀬戸内町渡連安脚場, 7. VI. 2016, 吉武採集 (図 1).

本個体はスダジイ (ブナ科) のビーティングによって得られた.

日本国内におけるオオダングラチビタマムシの分布は, 今回新たに記録された加計呂麻島以外に, 南九州および上甕島, 屋久島, 種子島, 口永良部島, 奄美大島, 徳之島, 沖縄島, 石垣島, 西表島において確認されている (大桃・福富, 2013; 瑤寺・吉武, 2018). 本種の寄主植物が南西諸島に広く分布するスダジイであり, この地域においては一部の主要島を除きタマムシ科甲虫相の解明が遅れている (瑤寺・吉武, 2018) ことから, 今後調査が進めば, さらに新分布記録が増えるものと思われる.

なお, 検視標本は (国研) 農研機構・農業環境変動研究センターに保管されている.

引用文献

大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タマムシ大図鑑. 206 pp. むし社, 東京.
 酒井 舜, 2017. 加計呂麻島・与路島におけるタマムシ科甲虫 2 種の記録. 月刊むし, (559): 57.
 瑤寺 裕・吉武 啓, 2018. 徳之島におけるタマムシ科甲虫の採集記録. 月刊むし, (565): 12-17.



図1. 加計呂麻島産オオダングラチビタマムシ.

(瑤寺 裕 243-0034 厚木市船子 1737 東京農業大学昆虫学研究室 (吉武 啓 305-8604 つくば市観音台 3-1-3 (国研) 農研機構・農業環境変動研究センター)